

蔵出しお宝ニュース

— 第 16 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。

本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

「河内守国助」在銘の槍 見つかる

資料館事務室奥の棚から、「河内守国助」^{かわちのかみくにすけ}在銘の槍の穂が見つかりました。穂だけが真綿と紙に包まれた状態で長らく保存されていましたが、錆^{さび}はまったくきていませんでした。整理中、紙に包まれたずしりと重い物があり、さては十手か何かかと思い開封してみましたら槍の穂が出てきたというわけです。



(上) 槍の穂先

(下) 白鞘の様子

河内守国助は江戸時代前期の摂津国の刀工です。大坂新刀黎明期の優れた刀剣を作った河内守国助と和泉守国貞^{いずみのかみくにさだ}は大変有名です。作風としては、地鉄^{ぢがね}は小杓目で刃文^{にえ}は鉾出来の華やかなものが多いです。同銘は3代続き、2代目河内守国助は通称「中河内」と呼ばれ、拳形丁子という独特の刃文を焼き、おおいに人気を博しました。

この度見つかった槍は、三原ゆかりの佐分利流槍術を研究していた方からの寄贈であったようで、三原の研師が研磨したという記録がありました。刃長は 14.7 cmです。今後裸身で保存するのは望ましくなく、鞘師に白鞘^{しらぎや}を早速仕立ていただきました。元来は拵^{こしらえ}（外装）があったと考えられますが、刀剣類の保存するには拵に納めておくよりも白鞘に納めておくのが適切です。

今後、浮城まつりなどの行事にあわせて展示することができればと思います。

昨年度の来館者 9,384 人！

平成 24 (2012) 年度の資料館の来館者はなんと 9384 人でした。近年では平成 12 (2000) 年度の 7963 人がピークで、平成 23 (2011) 年度はピーク時の約半分の 3947 名でした。数年利用者が低迷していましたが、昨年度は NHK や広島ホームテレビの取材、各新聞社が取り上げてくださった記事、三原テレビ放送の協力など、多数メディアに取り上げていただいたおかげと、下半期も神明市の歴代大だるまのパネル展示や、三原市重要文化財指定記念で「西町・東町絵図展」などの行事をいくつか計画したこともあり、ピーク時を超える入館者数となりました。ありがたいかぎりです。



本年度は昨年度以上に資料館から三原の歴史や文化の一端を発信していきたいと考えております。1 階ロビーを利用して講座やミニ企画展も開催いたしたいと思っております。

図書館や中央公民館などをご利用いただいた折に、ぜひ資料館へもお立ち寄りいただければ幸いです。

なお「蔵出しお宝ニュース」のバックナンバーは資料館入り口のラックにご用意いたしております。ご自由にお持ちください。



掛物 佐々木 美山 筆

桜に朧月図

(佐々木美山は広島ゆかりの日本画家です。)

花入 志野

花 季のもの



(左上) 神明市 歴代大だるまのパネル展示

(上) 資料館入り口のラック

発行 平成 25 (2013) 年 4 月 2 日

〒723-0015 三原市円一町 2 丁目 3-2

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。